

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 11

## ニットとカットソーの違いはなんですか・・・



ニット (knit) と カットソー (cut and sewn) の違い・・・？ 繊維業界やファッション業界でない人達が聞いたら そんなことが判らないのかと思われるかもしれませんが ファッション業界やセールス・マーケティング戦略においてはその時代に合った オシャレ感をイメージさせるフレーズやネーミングが使われることがよくあります。それは今でも同じことなのですがファッション用語がいつのまにか定番用語に代わってしまうことがたびたび起こります。ニットとカットソーもそんな感じでまぎらわしい言葉になってしまいました。



筆者はニッセンケンにお世話になる前はニット生地の生産 開発を 40 年近く担当していたので ニット業界には長いこと身を置いていたこととなります。経験年数があるので 自分で言うのもなんですが “ニット” に関してはちょっとウルサイです。なぜか声がでかくなる・・・(えっ それだけ?)。声がでかくなるだけでたいしたことはないのですが筆者の解釈で説明しておきたいと思います。

## カットソーの使い方

とは言うものの答えがひとつしかないというわけではありません。カットソーの使い方は

区分の仕方	使用区分
手編みセーターのようなざっくりしたニットシャツとTシャツのような目の詰まった薄いニットシャツで区分	⇒セーターがニット Tシャツがカットソー
ガーメントニット機でつくられるほぼ製品の形で編まれたものと生地から文字通り裁断 (cut) 縫製 (sewn) でできたもので区分	⇒セーターマシーンで作られたものがニット 生地から裁断・縫製して作られたものが カットソー
Tシャツで身頃は筒編みの生地で脇を縫製してないものと開反した生地で脇を縫い合わせたもので区分	⇒脇縫いなしものが元々の Tシャツ 脇縫いありの Tシャツがカットソー
Tシャツとちょっとオシャレなデザインのニットシャツ	⇒本来のものが Tシャツ デザインシャツがカットソー
同義語として解釈している場合もある	

というような分け方があります。説明しているのにさらに分かり難くなってしまったかもしれません。

## ニットとカットソー 曖昧な区分

そもそも「ニット」という単語には本来“編む”という意味しかないのですが「ニット生地」のことも「ニット」と言い「ニットシャツ」のことも「ニット」と呼ぶことがあるのでここからややこしくなっています。「カットソー」も本来であれば裁断して縫製することなので 織物でもいいはずなのにニットに限定しているのもおかしい話なのです。それぞれの立場で使い方が異なる場合がありますが一般的にはニットは厚地のセーター類のことでカットソーは薄手のニットシャツ類と考えていいようです。一般的といったのはファッション雑誌での使われ方から判断しています。

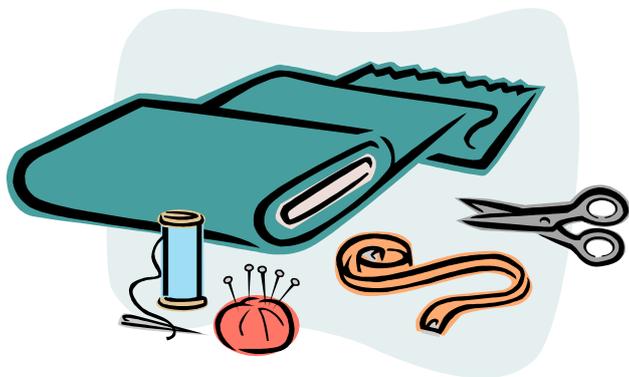


曖昧な表現を使うのもファッション(流行もの)の特徴でもあるので 雰囲気解釈するのもだいじなこともかもしれません。ただ繊維業界で使われる意味合いとは異なることが多いので 混乱を招くこともあります。カットソーは生産過程ではやはり裁断と縫製ということになり これがデザインニットシャツの意味になることはありえません。筆者の立場ではニットはあくまで編地のことになります。セーターはガーメントニットと表現します。

文章の途中ででてきた“筒編みの生地を縫製していない T-シャツ”の補足説明をしておきますと ニットの生地は丸編みと呼ばれる編機で作ると筒状の生地になります。靴下をイメージしてもらえば分かりやすいと思いますが生地が筒状になっています。編機には靴下編機のように口径が直径 10cm くらいのもので一般的な生地を編み立てる直径 200cm くらいのもので大きさがいろいろあります。

肌着や学校の体操着などはサイズによって編機の口径寸によってサイズごとに編み立てをしていて袖付けと首周り 裾だけ縫製します。何万枚も縫製する場合 脇を縫うことを省くことは生産効率を考えれば大きな違いがありますのでサイズごとに編機を揃えて生産することが以前は主流でした。今は広幅の編機の生産性が高くなったので 脇縫いなしのシャツの方が少なくなりましたが この脇縫いなしに置き換わって脇縫いありの裁断 縫製品をカットソーと呼んだというのも納得できるものと思われれます。

## 広がる技術と生地区分



ついでに生地の区分についても触れておきますが 生地を分類するときには織物と編物の 2 種類に分けられることが多いのですが本来は不織布を加えた 3 種類に区分することが正しいのです。不織布が衣料の中では芯地や刺繍のフェルトとしてくらいしか出番がないので忘れがちになりますが 生地の立場でいえば織にも編にも所属しない不織布の区分がないと全ての生地が振り分けられないのです。

さらに話が逸れますが織物か編物か判断に困る生地もあるのです。ひとつはサイクロニットといって編機はニットなのですがこの機械に経糸だけ立てて編立てていくという機械なのです。織物と同じように縦糸を

整経(せいけい)して生地を編立てると織物と編物のハーフの生地が出来上がります。縦糸挿入ニットと呼ばれる生地になります。見た目はニットでもほとんど伸びがない織物みたいな生地が作れます。

もうひとつはコーウィーニットと呼ばれる生地でこちらもニットと入っているので編機なのですが経編機(たてあみき)の種類になります。コーウィーニットは Combined Weave Knitting の Co(コー)We(ウィー)から名付けられています。名前の通り織物と編物の中間ということになっています。生地そのものも織物かニットか判別しにくいものです。そんな生地もあるということだけでも知識として持ち合わせておきましょう。

ソチ冬季オリンピックも終わってしまいましたが、今回もいろいろなドラマがありました。男子フィギュアでは金メダルの感激を女子フィギュアではメダル以上の感動をいただきました。選手のみなさまありがとうございました。

原稿担当 竹中 直(チヨク)

